

大東文化大学 東洋研究所所報

2021.1 No.74

目次

「共生」を考える 大東文化大学 学長 内藤 二郎……………1	第2回講座概要 兼任研究員 嶋 亜弥子……3
2020年度 秋の公開講座 「現代中国の内政・外交問題 ―最近の政治と外交」	2021年度 夏休み公開講座……………4
第1回講座概要 兼任研究員 伊藤 一彦……2	2020年度 東洋研究所刊行物……………4

「共生」を考える

大東文化大学 学長 内藤 二郎

私はこの10数年の間、「共生」ということについて特に深く考えるようになった。これは人間同士の問題であると同時に、人間と自然とのかかわりにおいても重要である。経済、社会が発展し、便利で豊かな生活が送れる一方で、激しい気候変動、地震や台風などの大規模な災害が頻繁に起こり、地球の存亡そのものが危ぶまれる時代となった。これは人間のおごりが自然との「共生」に失敗した結果であるとも言えよう。人間同士についても、21世紀入って20年が過ぎた今なお紛争や争いごとが絶えず、また貧困や飢餓の問題も解決されるどころか益々深刻化している。このままでは、いずれ人間社会が持続不可能になってしまうだろう。

こうした状況に対する危機感もあり、私自身、砂漠化が深刻化する中国・内モンゴル自治区で、環境改善と地域コミュニティの再生を目的とした新たな牧畜事業への支援の取り組みを始めた。砂漠化を極力抑制するために、牧民が自らの土地を利用して飼料の一部として自家牧場で利用する牧草を広く栽培することによって緑化を進め、環境対策の一助とした。一方、牧民の定住化政策によって生じた家畜の増加競争が一つの要因となって過放牧が進み、牧民間の協力や信頼関係が大きく損なわれた。それに自然環境要因も加わって砂漠化が拡大し、牧畜の維持が困難となったことで地域コミュニティが崩壊した。個々の牧民や住民が自立し、地域経済を活性化していくことによってコミュニティ機能を回復させ、地域の住環境を整備し、生活の質を向上させていくことが大き



な課題であり、それにつなげるよう住民間の連携強化の取り組みも進めている。長い年月をかけて築かれてきた先人の知恵、伝統文化を今一度見直して人間同士の「共生」を実現するとともに、その基になる自然との「共生」も目指すものである。

「共生」の実現は、国連が提唱する「SDGs；持続可能な開発目標」にも示されている通りであり、もはや待ったなしである。分野を越えた様々な調査、研究の一層の推進と、一人ひとりの具体的行動の重要性を改めて痛感している。

(経済学部社会経済学科 教授)

2020 年度 秋の公開講座「現代中国の内政・外交問題—最近の政治と外交」

2020 年度 東洋研究所 秋の公開講座は、大東文化大学「平成三十年度私立大学研究ブランディング事業」の一部として、「現代中国の内政・外交問題—最近の政治と外交」を統一テーマに下記の通り開催された。折しも、第2回の開催日に東京都の新型コロナウイルスの感染状況が、警戒レベル4段階で最も深刻な「4」に引き上げられたため、第3回(11月26日)の開催を中止せざるを得なくなった。受講者総数は2回の開催で定員30名のところ28名で、各講座の概要は以下のとおりである。

◇第1回 2020年11月12日(木) 13:00～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：中国の朝鮮半島への「影響力」

講師：伊藤 一彦(東洋研究所 兼任研究員)

北朝鮮が、国際的非難を顧みず核・ミサイルの開発を急速に進展させている事態において、中国による北朝鮮への影響力の行使がますます期待されている。しかし国連安保理の対北朝鮮経済制裁に中国が加わったことで、北朝鮮と中国の間の溝は深まった。

近代以前、中国と朝鮮とは宗主国と藩属国の関係にあった。戦後中国は、南北に分裂した北朝鮮とは社会主義陣営の兄弟国であり、自身台湾問題を抱え、ともに分裂国家という共通の課題もあって、朝鮮戦争では義勇軍を派遣して20万人近くの犠牲者を出して滅亡の危機から救った。「血で結ばれた戦闘的友誼」という程に深い関係にあり、中国は北朝鮮に対して大きな影響力をもつと考えられている。

ただし、豊臣秀吉の朝鮮侵略の際、朝鮮の要請に応じて出兵した明軍が乱暴狼藉を働き、朝鮮民衆の怨嗟的になったが、朝鮮戦争においても、中朝指導部は戦争指導をめぐり様々な点で意見が対立し、スターリンの支持によりすべての問題で中国側の主張が通った。そのため北朝鮮は中国に対して遺恨を抱くことになった。

北朝鮮の2代目指導者金正日総書記は死の直前、後継者金正恩にあて44項目に及ぶ指示を残した。「10.8遺訓」とよばれ、その全てが公開されていないが、韓国メディアによれば、中国について、「歴史上、われわれを最も苦しめた国は中国だ」「中国は今でこそわれわれに最も近い国だが、今後は最も警戒すべき国になりかねない」「絶対にかれらに利用されてはならない」という指摘がある。中国と北朝鮮の関係が極度に悪化した2017年、北朝鮮の国営メディア『朝鮮中央通信』が中国に対して、「相手の不誠実と裏切りにより戦略的利益が繰り返し害されているのは朝鮮であって、中国ではまったくない」「中国は自国の利益のため、朝鮮の戦略的利益のみならず、尊厳と死活的権利を犠牲にする大国排外主義だ」「朝鮮は、核計画と引き換えに中国との友好を請うことは絶対にしない」という罵詈雑言を投げつけたのを見ると、「10.8遺訓」の信憑性がうかがえる。



2018年、北朝鮮は最優先政策を核開発から経済に切り替え、初の米朝首脳会談という歴史的行動に出て世界の耳目を集めたが、米国というタフな相手とやりあうために、中国の協力を必要とした。かくして金正恩は1年未滿に4回も訪中し、中国に対する国際的非難が集中する香港問題で、断固として中国を支持する姿勢を示しました。

北朝鮮は、余裕があれば中国と距離を置こうとするが、切羽詰まれば中国に援助を求めざるを得ない。そうした場合、北朝鮮は必要以上に中国にすり寄り、中国の影響下にあるようにふるまう。現在、コロナ禍にあって、北朝鮮が置かれた状況はかつてない程厳しく、中国は北朝鮮に対して大きな影響力を揮い得る立場にある。しかし「金正日遺訓」が示すように、北朝鮮が核兵器を手放す可能性は極めて小さい上に、基本的に中国を信頼していない。したがって、北朝鮮の国家としての根幹に関わる

部分にまで、中国が「介入」する余地は無い。石油輸出を完全に断つことで、中国は北朝鮮をコントロールできるという主張があるが、北朝鮮の混乱が難民の中国への

大量流入を引き起こせば、中国への打撃は計り知れず、現実的とはいえない。

◇第2回 2020年11月19日(木) 13:00～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：現代中国の労働問題を考える

講師：嶋 亜弥子（東洋研究所 兼任研究員）

本講座では、中国で「農民工」と呼ばれる農村出身出稼ぎ労働者や農村女性を取り上げた。都市を支える重要な一員となった農村出身出稼ぎ労働者と、農村の発展や地域振興を支える重要な存在となりつつある農村女性に関する既存研究や独自のアンケート調査結果などを用い、現代中国における労働問題について考察した。なお、本講座は、「1. 「農民工」を取り巻く問題と最近の政策動向」「2. 都市の発展を支える「農民工」の実態」「3. 農村を支える女性リーダーの台頭」「4. 変貌する現代中国の労働問題」の順に解説した。

まず本題に入る前に、「農民工」の歴史的背景やその変遷などについて、戸籍制度が農村から都市への労働力移動を抑制していたことをはじめ、80年代、90年代における労働力移動の増加要因について概観した。

「1. 「農民工」を取り巻く問題と最近の政策動向」では、「農民工」が直面している主な問題として、戸籍、労働環境、住宅、子女教育など各種問題について説明した。また、これらの問題に対する中国政府の対応について、「1億人の非都市戸籍人口に都市定住を推進する方案」や「2019年新型都市化建設の重点任務」など最近の政策動向を紹介し、中国政府が近年、農民工に対する社会的な地位向上や労働環境の改善、職業技能の向上などに努めているとした。

「2. 都市の発展を支える「農民工」の実態」では、農村から都市に流入した出稼ぎ労働者の都市での就業実態を把握すべく、国家统计局による「農民工監測調査報告」(各年版)と、日系企業調査(農村出身労働者を雇用する日系企業で実施した独自のアンケート調査)をもとに、「農民工」の基本的な特徴について解説した。「農民工監測調査報告」(各年版)では、既婚者が多く、平均年齢は年々上昇し老年化しつつあること、約6割程度が中学程度の学歴を有する者で、最近は高校や大専(短大に相当)以上が増加傾向にあり、賃金も増加していることなどを特徴として挙げた。日系企業調査では、企業別の特徴はあるものの、総じて中学校卒業程度の農村出身労働者が中心で、依然として高い転職率であることや、高いスキルアップ意欲があることなどを紹介した。また、既婚者中間層を中心に、家族をとまなう都市への定住化が一層深化する一方で、将来設計については、都市での先行きが不透明であることから、帰郷志向を示した者が一定数存在していることにも言及した。



「3. 農村を支える女性リーダーの台頭」では、北京市にある実用技能訓練学校の訓練参加者に対して実施した08年アンケート調査と、10年追跡アンケート調査の調査結果を説明した。08年調査では、フェイスシートを概観したほか、婦女連合会の存在が大きいことや、「創業目的」で参加した人ほど訓練後に高い効果を実感していることなどを紹介した。10年調査では、08年調査との比較から調査対象者の特徴を確認し、全員が08年の訓練経験を評価していたことなどを示した。そのほか、訓練参加者同士でのネットワーク形成、量から質への意識転換、地場経済への参入などの実態からも、職業訓練という実践的な知識の蓄積によって意識の変化が生まれ、得られた知識やネットワークを活用し、農村に還元していくという正の循環が垣間見られると説明した。

「4. 変貌する現代中国の労働問題」では、今般、新型コロナウイルス感染症感染拡大により「農民工」がどのような影響を受けたのかについて言及したほか、新型コロナで影響を受けた「農民工」に対する政府の対応について紹介した。

講座終了後は、「いまま農村には余剰労働力が存在するのか」などといった質疑があり、活発な議論がなされた。

2021 年度 夏休み公開講座

東洋研究所では、秋の公開講座のほかに夏休み公開講座を予定しております。定員は15名（先着順、但し、東京都の新型コロナウイルスの感染状況で定員の変更があります。）、受講料は無料です。

日 程（予定）	講 師	テ ー マ
2021年7月中旬の土曜日 ～ 8月上旬の土曜日 10時30分～12時00分 上記のいずれかの日に、 3名の講師が開講します。	大東文化大学 名誉教授 東洋研究所 兼任研究員 岡倉 登志	日本美術史・公募展の誕生と岡倉天心
	大東文化大学 東洋研究所 兼任研究員 佐藤 志乃	明治期における「日本画」の創造 —横山大観の画業を中心に
	大東文化大学 国際関係学部 教授 東洋研究所 兼任研究員 田辺 清	明治期における西洋受容 —洋画を中心に

■会 場：大東文化会館 研修室（詳細は未定）

■交 通：東武東上線『東武練馬駅』下車徒歩3分

◆詳細な内容（日程、会場、定員）が決定しましたら、追って大学ホームページ等に掲載いたします。

2020 年度 東洋研究所刊行物

- ・ 東洋研究 第216号（2020年7月25日発行）
- 第217号（2020年11月25日発行）
- 第218号（2020年12月25日発行）
- 第219号（2021年1月25日発行予定）
- ・ 「藝文類聚」 卷四十九 訓読付索引（東洋研究所研究班 2021年2月発行予定）
- ・ 「茶譜」 卷十二 注釈（東洋研究所研究班 2021年3月発行予定）

この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

刊行図書取扱店

■(有)池上書店

〒175-8571 板橋区高島平1-9-1 大東文化大学2号館B1
 TEL：03-3932-7567 FAX：03-3932-7544
 E-mail：ike-book@smail.plala.or.jp

■汲古書院

〒102-0072 千代田区飯田橋2-5-4
 TEL：03-3265-9764 FAX：03-3222-1845
 E-mail：kyuko@fancy.ocn.ne.jp

■大東文化大学内購買部(株)進明堂書店

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560
 TEL：0493-34-4430 FAX：0493-34-5622
 E-mail：info-daigakuten@shinmeido.co.jp

■東方書店業務センター

〒175-0082 板橋区高島平1-10-2
 TEL：03-3937-0300 FAX：03-3937-0955
 E-mail：tokyo@toho-shoten.co.jp

大東文化大学 東洋研究所 所報 No.74

2021年1月25日発行

印刷：(株)東京技術協会

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒175-0083 東京都板橋区徳丸2-19-10

TEL (03) 5399-7351 FAX (03) 5399-8756

E-mail：tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>